

医学研究センター

学内共同研究推進部門

米谷 新

(部門長, 医学部 眼科学 教授)

構成メンバー

本年9月にRI部門主任栗田 卓也先生の異動に伴い, 新主任が犬飼浩一先生に替わられた。また, 日高キャンパスより西川 亮先生が新たに加わったことにより, 現在の構成メンバーは以下の如くである。

部門長: 米谷 新 副部門長: 糸山進次, 森 圭介

部門員: 西川 亮, 穂田真澄, 犬飼浩一, 椎橋実智雄, 坂本 安, 鈴木政美

学内共同研究推進部門の組織の中核が各共同研究施設であるため, その運営委員会は推進部門の運営に重要な役割を果たしている。したがって, 学内共同研究推進部門の部門会議は第1回の部門会議以降中央研究施設運営委員会と合同で開催されている。

運営委員会のメンバーは, 推進部門の構成メンバーに加え, 荒木信夫, 中村晃一郎, 名越澄子, 吉田喜太郎, 中村裕昭, 禾 泰寿 各先生の他, 田島賢司経理部長, 和田実第二購買課長より構成されている。

部門会議活動状況

平成19年6月27日第2回, 9月26日第3回, 12月18日第4回, 平成20年2月26日第5回, 5月27日第6回, 7月22日第7回の学内共同研究推進部門会議が中央研究施設運営委員会との合同会議として開催された。学内共同研究推進部門の現在の目的・目標は, 基本学科または, 毛呂, 川越, 日高の枠に囚われることなく, 全学的なレベルで行われている研究遂行を積極的に支援することである。更に, 高い研究活動を維持するためには, 経費, 研究機器等を円滑に運用する必要があり, そのために, 研究機器の整備, 研究スペースの確保, 人員の配置を集約的に行うことに勤めている。その実践において中核的役割を果たすのが当部門の使命であると考えている。

また, 平成20年4月1日付けで理化学研究所の阿部 岳先生を最初の寄附研究部門教授としてお迎えした。第二研究棟301号室において中央研究施設・寄附研究部門(阿部 岳寄附研究部門)としてスズメバチの持つ生理活性物質研究ならびに成虫-幼虫間の栄養交換の研究から独自に開発されたスポーツ飲料VAAMの発展的研究を開始されたが, 本学の研究活動の活性化と発展に寄与していただけるものと期待される。

中央研究施設の整備は, 私学助成枠を有効に使い, 現在のところ遅滞無く行われており, 高い研究レベルを可能とする機器が設置されている。平成19年度の私学助成では, 川越キャンパスより申請した「超微細形態イメージングシステム」が研究設備整備計画の助成予算枠で採択された。今年度は, 研究装置整備計画枠で, 中央研究施設・機能部門より「レーザーイオン化四重極イオントラップ飛行時間型質量分析計」に関する計画調書を作成し申請した。

中央研究施設利用状況

各施設の利用登録者数は, 平成20年度では延べ342名であり, 活発な研究活動が維持されていることと推測される。

今後の課題・問題点

現在, 年度末の会計報告, 予算申請の時期に開催される委員会以外は, 必要に応じて適宜開催しているが, 推進部門としての方向性の確認ならびに現状把握を迅速化し, 円滑で効率の良い推進部門の活動を維持するためには, 定期的な部門会議の開催も必要であると考えられ, 検討・調整を進めたい。

中央研究施設の整備拡充と運用上の利便性の配慮に関して, 3キャンパスのおかれている物理的な障壁を乗り

越え、より集約的な研究支援体制について検討すること、また、より円滑な相互利用等に関する協調性も実現し、研究設備の高効率な利用法を前向きに検討することをこれからの課題として行きたい。組織拡大の一方で、その土台となる共同研究支援施設への十分な資金配分を達成するためにも、以上の課題について積極的に討議すべきと考える。